

これからの 琵琶湖と川とダムを 考える若者討論会

平成15年5月25日(日) 13:30~17:00
大津商工会議所

プログラム

13:30

開会

本日の試行の会について ■嘉田 由紀子
(琵琶湖部会委員
住民参加部会委員)

13:45

意見発表と質疑応答

■金尾 滋史(滋賀県立大学大学院)

現在の琵琶湖・淀川水系において、学生として何が必要なのか、
何が実践できることなのか

■市橋 宏文(京都精華大学)

琵琶湖をはじめとする自然環境と私たちが共存するには何が必要か

■北山 泰三

琵琶湖・淀川流域における水質および底質の浄化、保全について

〈途中休憩〉

■石山 一光(京都精華大学)

「つながり」の再生を目指す -現在の公共事業の問題点をめぐって-

■安東 尚美(流域調整室 代表)

天ヶ瀬ダムの再開発について

■野田 岳仁(Youth Water Japan代表)

①淀川水系流域委員会に世代間部会(世代別部会)を設置

②「コミュニティの水を飲む」マイボトル(水筒)キャンペーンを行う

16:00

自由討論 (傍聴者も含む)

17:00

閉会

※当日の状況により終了時刻が30分程度前後する場合があります

配布資料

資料1 発表予定者と一般意見聴取試行の会に寄せられた意見

資料2 学生の視点からみた琵琶湖・淀川水系: 金尾氏からの提供資料

淀川水系流域委員会とは

<これからの淀川を考えるために作られました>

「淀川水系流域委員会」(以下流域委員会)は、今後、20～30年間の具体的な河川の整備内容を示す「河川整備計画」について学識経験者から意見を聴く場として、平成13年2月1日に国土交通省近畿地方整備局によって設置されました。流域委員会は委員会と3つの地域別部会(琵琶湖、淀川、猪名川)および4つのテーマ別部会(環境・利用、治水、利水、住民参加)で構成され、53名の委員が所属しています。

<公共事業の計画づくりのモデルを目指しています>

流域委員会では以下のような、従来にない新しい方式を導入し、今後の公共事業の計画づくりのモデルになることを目指しています。

- 準備会議において委員会の構成、メンバー等を審議：委員会の構成、委員の選出など委員会の内容は、有識者からなる準備会議にて審議を行い決定しました。また、委員選出においては一般からの公募も実施しました。
- 委員による自主的な運営：検討内容、進め方等は委員が自主的に決定し、第三者的立場で民間企業が庶務としてその運営をサポートしています。
- 審議のプロセス、内容の情報公開：会議及び会議資料、議事録等は原則として公開しています。
- 幅広い意見の聴取：委員は、治水、利水、環境、人文その他の幅広い分野で構成されており、地域の特性に詳しい委員も多数含まれています。会議では一般傍聴者からの意見聴取も実施しています。



河川整備計画原案審議に向けて

近畿地方整備局の河川整備計画原案作成に向けて、河川整備のあり方を示した提言をとりまとめました。今後は、この提言をもとに近畿地方整備局より示される河川整備計画原案に対する審議を行い、最終的に意見書を提出する予定です。